発行・いのちのことば社　ⓒクリスチャン新聞　2009年6月21日発行（月4回日曜発行）　通巻第2024号　（1960年12月10日第３種郵便物認可）

■編集部【e-mail】cs-edit@wlpm.or.jp【TEL】03-3291-7854　■購読課【e-mail】cs-read@wlpm.or.jp【TEL】03-3291-8524【FAX】03-3291-6700

◆THE CHRISTIAN◆
クリスチャン新聞
http://jpnews.org
2009年6月21日号
1部　225円（税込）

今週の記事

教界ニュース …2、3
ビジネス …4
牧会/神学/社会 …5
情報クリップ …9
かんさい …10
クリスチャンライフ …11
ひと …12

月刊ディボーションガイド「manna[マナ]」創刊 ……2
JEA 韓国と宣教協力を強化 ……2
離婚、破産、大事故 どん底で神の声……10
「親が教育」浸透 チア・にっぽん 10年……11
やもめの母から受け継いだ神の信仰……12

■定期予約購読料・1部（税含、前払い）
紙代　送料　合計
● 3か月…　2,700円＋　480円＝　3,180円
● 6か月…　5,400円＋　960円＝　6,360円
●12か月…10,800円＋1,920円＝12,720円
■海外・1部12か月（非課税、送・手数料含）
船便（各国共通）16,464円
航空便（地帯別）　18,960円～22,992円
振替口座00150-8-101512いのちのことば社ジャーナル出版事業部購読
※お申し込み・お問い合わせは上記購読課まで。
※便利な口座自動引き落としもご利用下さい。
いのちのことば社ジャーナル出版事業部
〒101-0062東京都千代田区神田駿河台2-1OCCビル5F

Global Day of Prayer

220か国で心一つに

ペンテコステ「悔い改めと祈りの日」世界へ

01年、南アフリカ・ケープタウンで始まった世界的祈りのムーブメント「Global Day of Prayer」（GDOP、グラハム・パワー委員長）が、ペンテコステの日の5月31日、世界220か国で実施された。日本の開催地は東京（東京中央教会）、埼玉（所沢航空記念公園）、大阪（大阪クリスチャンセンター）、高知（加賀野井キリスト教会）の4か所。埼玉の集会では、地域にある様々な教派の教会から240人が集い、全世界のため共に祈った。

16歳以下の子どもたちの祝福の祈り。20人ほどが前に進み出、共に祈った

公園の野外ステージで角笛が高らかに吹き鳴らされ、埼玉GDOPは幕を開けた。序盤は、フィリピン、ブラジル、アメリカなど様々な国籍の参加者と共に、日本語と英語で賛美。前に進み出た、地域の宣教師や牧師ら25人のために会場全体で祝福の祈りを捧げた。2組のゴスペル・クワイアの賛美の合間には、イエス・キリストに倣って互いの足を洗い合う「洗足式」も。足を洗い、肩を抱き合って祈る参加者の姿があちこちで見られた。

「世界各地のための祈り」では、まず日本のために横山基生牧師（日基教団・東京新生教会）が祈祷。今年のプロテスタント宣教150周年に触れ、「これまでなされてきた宣教の業によって教会が建て上げられてきたが、いまだ人口の1%に満たない状況。証し人が起こされ、主の御業が進むように」。

また中高生・学生伝道団体の働きの祝福のため、政治のため、「年間の自殺者が3万人を超えた今、生きる目的を探す人々に福音が届けられるように」祈った。続いて、韓国、北朝鮮、中国、フィリピン、イスラエル、南北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、カリブ海諸国などからの代表が各国のために熱心に祈った。

イスラエルのための祈りでは、「いのちの木メシアニック集会」のポール内山牧師が登壇。集会メンバーの賛美とダンスには、会場の参加者も加わり大きな輪となった。

参加者からは、「こんなに大勢の、色々な国の人と祈るのは初めてだった。とても感動した」などの声が聞かれた。

GDOPは01年、グラハム・パワー氏の呼びかけによって、Ⅱ歴代誌7・14の聖書の言葉をテーマに「悔い改めと祈りの日」として始まった。ケープタウンを中心としたこの動きは次第にアフリカ中へ、やがて世界中へと広がり、05年、第1回GDOPが開催された。

毎年、初代教会に倣い、「10日間連続の祈り」（キリスト昇天日からペンテコステまでの10日間）、「GDOP」（ペンテコステ）、「90日間の祝福」（ペンテコステの後に続いた祝福の日々。実際に地域が造りかえられることを願い、結束を深めて祈る）の3部構成で実施されている。

ムーブメントは、2010年まで開催される。来年は、5月23日開催予定。GDOP日本＝URL http://gdopjapan.com/

【藤野多恵】

互いに足を洗い合った

オバマ大統領 カトリック左派を起用

駐バチカン大使に解放の神学者

【CJC＝東京】バラク・オバマ米大統領は5月27日、駐バチカン大使にキューバ出身の解放の神学者ミゲル・H・ディアズ氏（45）を起用する、と発表した。ハバナ生まれ、ミネソタ州カレッジビルの聖ヨハネ大学と聖ベネディクト大学准教授。イタリア語、スペイン語、フランス語に堪能という。神学校協会の認可基準検討タスクフォースにも任命されている。神学者カール・ラーナーの研究で知られ、著書は『人間であること』ヒスパニック系のそしてラーナー派の展望』（オービスブック、2001年）など多数。

ディアズ氏は大統領選挙に際しオバマ氏に千ドル（約10万円）を献金するなど、オバマ支持は明確。ディアズ氏の選定は、オバマ政策を無条件に支持したカトリック者に対する最初の見返りと見られている。ディアズ氏自身は「神学についての助言者として招かれたことに答えた」としているものの、民主党の活動家アレクシア・ケリー氏がオバマ支持のために組織したグループ「コモン・グッドのために連帯するカトリック者」のメンバー。

カトリック系CNA通信は、ディアズ氏が「わが国と聖座（バチカン）との間の外交的な懸け橋になりたい。上院で承認されれば、前任者の働きを引き継ぎ、聖座との間の25年にわたる優良な関係を維持する」と語った。

ディアズ氏の主要な関心は「インクルーシビティ（包括性）にあるところから、カトリック左派の支持があり、今回の指名に際しても、「カトリック・ユナイテッド」などオバマ支持のカトリック者が即座に歓迎の意向を表明している。「あらゆる段階での生命の守り手」とされ、妊娠中絶を強く支持するカスリーン・セベリウスの厚生長官指名を支持する声明に署名している。

引用の聖書本文は、断りのない限り新改訳聖書第3版を使用しています